

放射線治療を受ける患者のマーキングに対する感情と 関連要因の検討：質問紙調査による横断研究

～患者の日常生活と治療を支えるために～

看護学部

あさだひろみ
○助教 浅田裕美

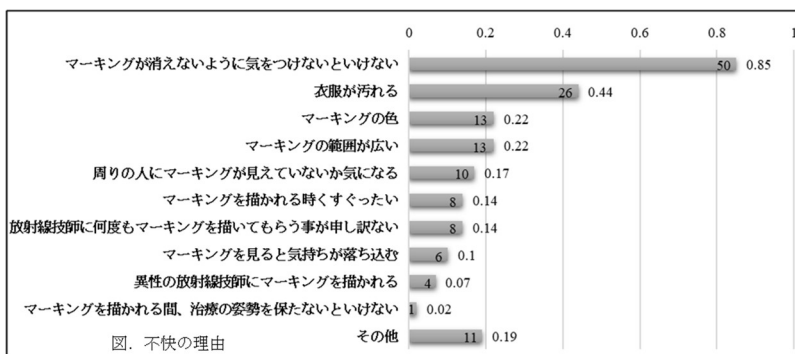
キーワード

放射線治療, マーキング, 患者の感情, 質問紙調査



研究概要

放射線治療を受ける患者は、照射位置の再現性を確保する目的で多くの場合、皮膚に直接マーキングが行われる。これまでマーキングに関して用いられる製品の耐久性の比較や身体的影響に関する報告はあるが、マーキングに対する患者の感情に焦点をあてた研究はない。そこで本研究では、放射線治療を受ける患者が皮膚のマーキングに対してどのように感じているか、また、どのような要因がその感情に影響を与えるかを明らかにすることを目的とし、自記式質問紙とカルテのレビューによる横断的研究を行った。対象者は、がん診療連携拠点病院で放射線治療を受けている20歳以上の患者である。主要評価項目を「マーキングを不快に感じた程度」、副次的評価項目を「マーキングに対する好意的な評価の程度」とした。不快に関連する要因を検討するため、順序ロジスティック回帰分析を行った。153名に質問紙を配布し132名(86%)から回答を得た。分析対象となった108名のうち56%(105名中59名)が皮膚のマーキングは不快であったと回答し、好意的に評価した患者は63%(93名中59名)であった。今回の結果では、いずれの要因も主要評価項目と有意な関連は示されなかった。多くの患者が、治療におけるマーキングの必要性を理解しているため、マーキングを受け入れていた。医療者は、患者のマーキングに対する感情を理解し、日常生活への影響を含む説明と正確な治療が行われている安心感を与える十分な配慮を行う必要がある。



アピールポイント

本研究は、放射線治療を受ける患者の感情に焦点をあてた貴重な報告である。患者はマーキングがあることで周囲の視線を気にしたり、マーキングが消えない配慮を日々行わなければならない一方で、適切な場所に照射が行われる安心感を得ていた。放射線は、目に見えず痛みを感じないため、患者は被曝や治療効果に対する不安を感じやすい。現在、本研究結果をもとに詳細な患者の感情を把握するため、インタビュー調査を実施している。

Asada H, Takahashi Y, Ono Y, Kishi N, Matsuo Y, Mizowaki T, Nakayama T. Emotional Experiences of Skin Markings Among Patients Undergoing Radiotherapy and Related Factors: A Questionnaire-Based Cross-Sectional Study. Patient Prefer Adherence. 2022 May 26;16:1359-1369. doi: 10.2147/PPA.S361916. PMID: 35651663; PMCID: PMC9150759.